

広報委員会

広報委員会委員長 柴田直哉*

意外に聞こえるかも知れないが、広報委員会は本年度から発足したばかりの新米委員会である。よって本稿では、その前段となった広報推進WG(ワーキンググループ)(2020年発足)の活動内容を紹介したい。

広報推進WGは、会員数の漸次減少、年齢比率の高齢化、産学連携の停滞、国際プレゼンスの低迷などの危機感をベースとして、前会長である高梨弘毅先生の御発案により発足した。本WGでは、本学会の意義と活動内容を国内外にしっかりと発信し、科学界における金属・材料分野のプレゼンス向上と学会員の増員を目的としている。昨年度から活動をスタートし、本年度からは広報委員会に活動を継承している。WG委員長は東京大学の柴田が拜命し、委員には学术界および産業界から気鋭の若手研究者を結集し、本学会の20年後に対して責任を負う世代(40歳代中心)による運営を企図した。

本WGでは、まず本学会の過去・現在・未来を俯瞰し、広報活動における重要な観点を洗い出すべく、委員同士による複数回の議論と全会員へのアンケート調査を実施した。アンケート結果に関しては2021年7月号のまてりあに詳細に纏めているので、そちらを参照されたい⁽¹⁾。その結果、以下の4つのサブテーマ(①コーポレート・アイデンティティの作成と普及、②情報発信、③広報刊行物、④アウトリーチ活動)を立ち上げ、それらを有機的に且つ同時並行で推進している。①に関しては、これまで本学会には公式のロゴマークが存在していないことから、この機に公募コンペを行い、多くの学会員に御支持頂けるロゴマークの制定を目指している。また、学会キャッチフレーズについても鋭意検討中である。②では、ホームページの見直しやSNS、動画などを活用した情報発信の拡充を目指した活動を進めており、特にホームページの全面改訂を一大目標と定めている。③では、本学会の意義と活動を広く社会・産業界に発信するための媒体として、公式パンフレットの作成を進めている。④では、コロナ禍の中、小中高、企業などへ向けてどのようにアウトリーチを行っていくのかに関して議論を深め、オンラインを活用したチュートリアルや動画配信などの可能性を検討している。

表1 広報委員会メンバー。

委員長	柴田直哉(東京大学)
副委員長	宮本吾郎(東北大学)
委員	安東知洋(大同特殊鋼)
	植田圭治(JFE スチール)
	好田 誠(東北大学)
	関谷茂樹(古河電気工業)
	高橋有紀子(物質・材料研究機構)
	中村篤智(大阪大学)
	平田秋彦(早稲田大学)
	松田光弘(熊本大学)

最近では委員の息もピッタリと合い、手前味噌ながら、本年度中に多くの成果が期待できる状況にあると考えている(表1)。本WGのモットーは、全員が忌憚無くどんどん発言し、大いに議論して自身の認識を深める、ということにある。これはメンバー構成を40歳代中心とした際に意図したことであるが、オンライン会議にもかかわらず毎回活発な議論が行われ、実働も積極的に進んでおり、大変頼もしく感じている。また、本WGを通じて委員全員が学会への愛着を再認識し、且つ将来への危機感を共有できたことが、現在の高いアクティビティのベースとなっていると考えられる。その意味で、広報を考える重要性を早く提唱され、本WGおよび広報委員会の発足にご尽力された高梨前会長の慧眼に敬服するばかりである。また、山村英明事務局長の巧みなハンドリングにもこの場をお借りして感謝申し上げたい。広報委員会の成果についてはもう少しお時間を頂くことになるが、委員一同、学会員の皆様のご期待に沿えるよう、精進して参る所存である。

文 献

- (1) 柴田直哉：まてりあ，60(2021)，435-440。
(2021年7月12日受理)[doi:10.2320/materia.60.591]

* 東京大学大学院工学系研究科総合研究機構